

八幡平市

走る、投げる、跳ぶ、転ぶ!? 松尾地区大運動会

世界陸上大阪大会最終日の9月2日、2年に1度の松尾地区大運動会が松尾総合運動公園で行われました。今回は合併直前の17年7月に開催したため、今回が市誕生後、初めての大運動会です。

開会式で、菅原一兄^{（市）}大会長は「健康に関心を持ち、地域と世代間の交流を深めよう」とあいさつ。松尾中学校3年の



チーム全員の力を結束し、懸命に綱を引っ張る選手たち（綱引き「力を合わせて」）



イチ・ニ、イチ・ニと息を合わせて走るムカデリレー

畠山直也君が「正々堂々と戦います」と宣誓し、互いの健闘を誓いました。

菅原大会長と幼児8人が手をつないで走る始走式で運動会が幕開け。松尾、野駄、寄木、柏台の4チームの対抗競技とオープン競技の合計26種目で熱戦が展開されました。

参加者たちは、徒競走やチャンスレースで日ごろの運動不足を解消。団体競技で地域の結束を深めたほか、応援する声にも力が入りました。優勝の行方は最終種目までもつれ、最強リレーで決着。寄木が6連覇を達成し、野駄、松尾、柏台の成績順になりました。

安代中学校の全校生徒は8月25日、安代中学校学校林「ふれあいの森」で体験学習を行いました。

これは、森と人間の共生を学ぼうと、生徒が学校林に木を植え、手入れをしているものです。この日は、PTAとアドバイザーも参加して、草刈りや枝打ちなどを実施。3年の立花聖也君は「後輩には安代中だからできる体験を通して、自然の大切さを実感してほしい」と汗をぬぐいました。



森と人間の共生を学ぼうと学校林の手入れをする生徒

安代中が学校林で森林を育て心をはぐくむ



勇壮な舞を披露する折壁・日泥先祓（はら）い保存会

市内に伝わる民俗芸能に理解を深め、次代に継承しようとする第1回八幡平市民俗芸能大会は9月1日、西根地区市民センターで開かれました。芸能大会には市内から9団体、岩手町と三戸市から各1団体が招待され出演。舞に込められた地域の歴史や文化を受け継いだ出演者たちは、華やかな衣装に身を包み、誇りを胸に民俗芸能を披露しました。現在、市には指定無形民俗文化財が19団体あります。

脈々と継ぐ地域の誇り「民俗芸能」を次代へ